

# 水辺の生物



写真提供  
大阪府環境農林水産総合研究所  
水生生物センター

## オイカワ(追河)

コイ科ダニオ亜科オイカワ属

コイ科の淡水魚。釣りの対象、また水遊びの相手としてなじみの深い魚である。オイカワの和名は川の中を追いつ追われつ泳いでいる様子からとも言われ、元来琵琶湖付近での呼び名であった。

体長は雄が約15cm、雌が約10cmと雄のほうが大きい。体は細長く、口ひげはない。体色は背面が灰青色で、体側と腹面は銀白色、体側に淡いピンクの横縞が数本入る。草食性の強い雑食性で、水生昆虫や付着藻類、浮遊動物などを食べる。

雄の体は5～8月の産卵期には赤や青緑色などの美しい婚姻色を帯び、頭部などに白色の斑点「追星」が現れる。流れのゆるやかな平瀬の砂礫底に、雄が産卵床をつくり、1対の雌雄で産卵する。卵は直径1.5mm～2.0mmの沈性付着卵で、4～5日でふ化する。ふ化した稚魚は3～4日後に泳ぎ出し、通常は河口近くまで流下するが、上流部にゆるやかな淵があると、そこで留まることがある。2年で成熟する。

近年、川床を浅く平坦に広げ、ゆるやかな水域を造る河川改修が行われることが多く、オイカワにとっては生息しやすい環境になったという。もともと日本では、北陸・関東地方の以西、四国の瀬戸内海側、九州の河川の中・下流の暖流域および湖沼に分布していたが、近年、稚アユの放流が各地で行われるようになり、雑魚とともにオイカワも移植され、東北地方や四国の太平洋側にも分布を広げている。

オイカワに押され気味なのが近縁種のカワムツ。両者が生息する河川では、オイカワは瀬、カワムツは岸辺の淵とすみ分けているが、ゆるやかな水域ばかりになるとオイカワが増え、すみかを失ったカワムツは減る傾向にある。カワムツがオイカワに比べ、水の汚染に弱いことも一因とされる。

取材協力：高木嘉雄氏

参考文献：川那部浩哉・水野信彦・細谷和海／編・監修『日本の淡水魚』1989 山と溪谷社  
望月賢二監修『図説 魚と貝の大事典』1977 柏書房  
阿部宗明監修『原色魚類大圖鑑』1987 北隆館  
ホームページ「大阪府環境農林水産総合研究所 水生生物センター」